

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この詩の山は、七言絶句の押韻（声・城・情）、「暗に」の訳、「折柳」＝別れの曲という故事、そして第四句の反語です。

あらすじ＝春の夜、旅先の洛陽の町。どこからともなく笛の音が流れてくる。吹き手の姿は見えないまま、その音は散り広がって春風にとけこみ、町じゅうに満ちわたる。耳をすませた作者は、その調べの中に別れの曲『折楊柳』を聞きとる。故郷を離れて旅にある身には、その一曲がそのまま望郷の思いに変わる。結びの第四句は「誰が故郷を思う気持ちを起こさずにいられようか」と反語で言い切り、作者ひとりの思いを、旅にある人みな思いへと広げている。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① 誰（た）が家（いへ）の ② 玉笛（ぎよくてき）ぞ ③ 暗（あん）に ④ 声（こゑ）を飛（と）ばす
⑤ 散（さん）じて春風（しゅんぷう）に入（い）りて ⑥ 洛城（らくじやう）に満（み）つ
⑦ 此（こ）の夜（よ） ⑧ 曲中（きよくちゆう） ⑨ 折柳（せつりう）を ⑩ 聞（き）く
⑪ 何人（なんびと）か ⑫ 起（おこ）さざらん ⑬ 故園（こゑん）の情（じやう）

語注 玉笛＝玉で飾った美しい笛。笛をほめていう言い方（美称）。暗に＝どこからともなく。吹き手の姿は見えないまま。声＝音。ここでは笛の音。人の声ではない。飛ばす＝（音を）遠くまで響かせる。散す＝散り広がる。洛城＝洛陽の町。「城」は城壁で囲まれた町のこと、日本語の「お城」ではない。曲中＝聞こえてくる笛の曲の中に。折柳＝楽府の曲名「折楊柳（せつやうりう）」。「旅立つ人に柳の枝を折って贈る風習にちなむ、別れの曲。何人＝どの人。誰。故園＝ふるさと。故郷。情＝思い。気持ち。 ※白文＝「誰家玉笛暗飛声／散入春風滿洛城／此夜曲中聞折柳／何人不起故園情」。 ※第一句の「暗に声を飛ばす」（白文「暗飛声」と第三句の「折柳を聞く」（白文「聞折柳」）は、ふつうの書き下し文どおりに語順を入れかえて示しています。 ※第四句だけは、詩の形が見えるように白文の字の並びに沿って「何人が起さざらん 故園の情」と示しました。ふつうの書き下し文の語順では「何人が故園の情を起さざらん」となります。同じ本文の中でやり方が分かれているのはこのためです。お使いの教科書の表記に合わせてください。

春夜洛城聞笛

A 語句の意味と読み(1～7)

- (1) ②「玉笛(ぎよくてき)ぞ」の「玉笛」の読みを現代仮名遣いで書け。また、その意味も書け。
- (2) ③「暗(あん)に」の意味を書け。
- (3) ④「声(こゑ)を飛(と)ばす」の「飛ばす」は、ここではどのような意味か書け。
- (4) ⑤「散(さん)じて春風(しゅんぷう)に入(い)りて」の「散ず」の意味を書け。
- (5) ⑥「洛城(らくじやう)に満(み)つ」の「洛城」とは、どこの町のことか。読みを現代仮名遣いで書き、あわせて答えよ。
- (6) ⑨「折柳(せつりう)」の読みを現代仮名遣いで書け。また、これは何か。
- (7) ⑬「故園(こゑん)の情(じやう)」の「故園」の意味を書け。

B 句法(8～13)

- (8) ①「誰(た)が家(いへ)の」・②「玉笛(ぎよくてき)ぞ」の文末の「ぞ」はどのような働きをしているか。「誰が家の玉笛ぞ」の意味もあわせて書け。
- (9) ⑨「折柳(せつりう)」・⑩「聞(き)く」は、白文では「聞折柳」の順に書かれている。書き下し文で順序が入れかわるのはなぜか説明せよ。
- (10) ⑪「何人(なんびと)か」・⑫「起(お)こさざらん」に用いられている句法の名を書け。また、「何人かゝざらん」の意味も書け。

- (11) ⑪「何人(なんびと)か」の「か」はどのような働きの語か。呼応している文末の語もあわせて書け。

- (12) ⑫「起(お)こさざらん」の「ら」は何という語の何形か。文法的に説明せよ。

- (13) ⑪「何人(なんびと)か」・⑫「起(お)こさざらん」・⑬「故園(こゑん)の情(じやう)」は、この記事では詩の形が見えるように白文の字の並びに沿って示して

ある。ふつうの書き下し文の語順に直して、第四句を一文で書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ④「声(こゑ)を飛(と)ばす」の「声」とは、何の音か。

(15) ⑤「散(さん)じて春風(しゅんぷう)に入(い)りて」・⑥「洛城(らくじやう)に満(み)つ」の主語は何か。

(16) ⑧「曲中(きょくちゆう)」とは、何が奏でている曲の中か。②の語を用いて答えよ。

(17) ⑩「聞(き)く」の主語は誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①②③④をふくむ第一句「誰が家の玉笛ぞ 暗に声を飛ばす」を口語訳せよ。

(19) ⑤⑥をふくむ第二句「散じて春風に入りて 洛城に満つ」を口語訳せよ。

(20) ⑦⑧⑨⑩をふくむ第三句「此の夜 曲中 折柳を聞く」を口語訳せよ。

(21) ⑪⑫⑬をふくむ第四句「何人か起こさざらん 故園の情」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ③ 「暗（あん）に」とあるが、この一語から、笛の吹き手についてどのようなことがわかるか。

(23) ⑤ ⑥ から、笛の音はどのように広がっていくと描かれているか。四十字以内で書け。

(24) ⑦ 「此（こ）の夜（よ）」とあるが、作者はこのときどのような境遇にあったか。題名とあわせて答えよ。

(25) ⑨ 「折柳（せつりう）」を聞いたことが、なぜ⑬「故園（こゑん）の情（じやう）」につながるのか。「折柳」の由来にふれて説明せよ。

F 文学史・故事（本文全体をふまえて答える）(26～28)

(26) この詩の形式を漢字四字で書け。また、押韻している字を三つすべて書け。

(27) この詩の作者李白について、生きた王朝の名と、並び称される詩人の名を書け。

(28) ⑨ 「折柳（せつりう）」のもとになった、中国で旅立つ人を見送るときの風習を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「暗に」は「暗い」ではない。③は「どこからともなく・姿が見えないまま」。音は聞こえるのに吹き手が見えない、という意味あいです。②第一句は疑問、第四句は反語。①②「誰が家の玉笛ぞ」は問いかけ、⑪⑫「何人か起こさざらん」は「いや、誰もが起こす」。文末が「ぞ」か「ん」かで見分ける。③「折柳」は曲の名前。柳を折る動作ではなく、別れの曲『折楊柳』。押韻は「声・城・情」で、第三句末の「柳」はふまない。